

WS 4	『梅松論』を読むー南北朝の動乱を考える				※グループ発表あり
	【会場定員】35名 【受講料】2年会員・1年会員ともに 9,270円 聴講生10,810円				
	【歴史・文学・人間学】日本史 ワークショップ 【時間】毎回13時15分～15時15分（計6回）				
概要	南北朝の内乱を描いた軍記物として『太平記』とともに名前が挙がる『梅松論』は、『太平記』より記載期間も短く、またテイストも異なったものとなっています。『梅松論』の原文に触れながら、『梅松論』の目を通した南北朝の内乱を考えていきましょう。				
回	月/日(曜)	会 場	学習内容	講師名(敬称略)	
1	10/7(火)	川崎市 生涯学習 プラザ	総論ー『梅松論』という史料	京都芸術大学講師 角田 朋彦	
2	10/28(火)		建武の新政と中先代の乱		
3	11/11(火)		足利尊氏の離叛と京都合戦		
4	11/25(火)		尊氏の九州落ちと筑前多々良浜合戦		
5	12/9(火)		湊川合戦と楠木正成		
6	1/13(月)		総括ー足利兄弟の人物評		
連絡 事項	テキストには『梅松論・源威集』（新撰日本古典文庫 3、現代思潮社、1975年刊）を使用、アカデミーで用意します。				